

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

NDL 書誌情報ニュースレター

2011 年 4 号(通号 19 号)

目次

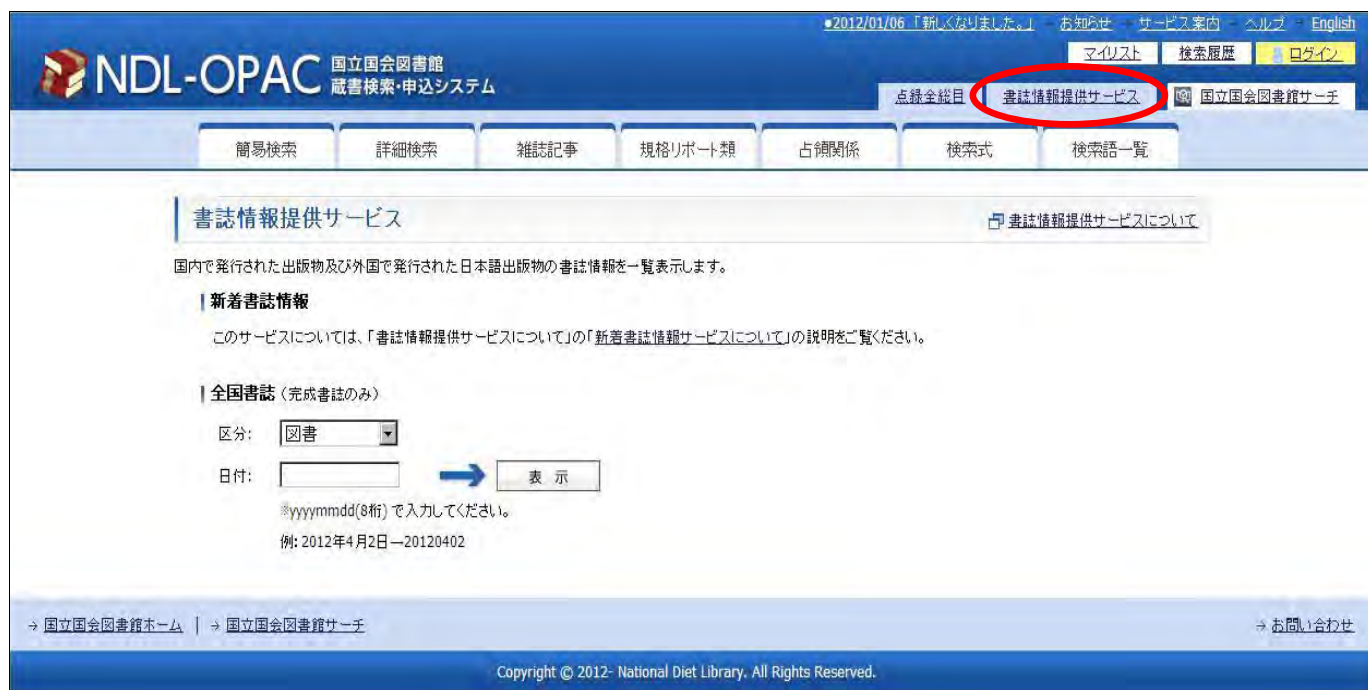
2012 年 1 月からの全国書誌	(収集書誌部)	1
デジタルアーカイブとモバイル版への ISSN 付与方針－第 36 回 ISSN センター長 会議参加報告	(逐次刊行物・特別資料課 増田利恵)	4
メタデータの調和－2011 年ダブリンコアとメタデータの応用に関する国際会議 (DC2011) 参加報告	(電子情報部 電子情報流通課 佐藤良)	7
お知らせ:国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述(DC-NDL)を改訂しました (電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係)		12
お知らせ:JAPAN/MARC MARC21 マニュアルを公開します (収集・書誌調整課 書誌調整係)		13
お知らせ:「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス(Web NDL Authorities)」を本格的に公開します (収集・書誌調整課 書誌調整係)		14
お知らせ:国立国会図書館件名標目表(NDLSH)の提供方法が変わります (収集・書誌調整課 書誌調整係)		15
コラム:書誌データ探検 アジア言語資料編 (関西館 アジア情報課 林瞬介)		16
掲載情報紹介		20
編集者からの一言		21

2012年1月からの全国書誌

2012年1月6日以降、全国書誌は、[NDL-OPAC](#)の「書誌情報提供サービス」画面から提供します。
※ホームページで提供してきた『日本全国書誌』は、2011年43号をもって終刊いたしました。

■提供する資料の範囲

『日本全国書誌』の収録範囲と同様、当館が収集した国内で発行された出版物及び外国で発行された日本語出版物の書誌情報を提供します。



The screenshot shows the NDL-OPAC website interface. At the top, there is a navigation bar with the NDL-OPAC logo and the text '国立国会図書館 蔵書検索・申込システム'. A red circle highlights the '書誌情報提供サービス' link in the top navigation bar. Below the navigation bar, there is a search bar and a menu with options like '簡易検索', '詳細検索', '雑誌記事', '規格レポート類', '占領関係', '検索式', and '検索語一覧'. The main content area is titled '書誌情報提供サービス' and includes a section for '新着書誌情報' (New Bibliography Information) and a section for '全国書誌 (完成書誌のみ)' (National Bibliography (Completed Bibliography Only)). The '全国書誌' section has a dropdown menu for '区分' (Category) set to '図書' (Books) and a date input field for '日付' (Date) with a '表示' (Display) button. The footer contains the text 'Copyright © 2012- National Diet Library. All Rights Reserved.'

< 書誌情報提供サービス画面 >

■閲覧方法

「書誌情報提供サービス」画面の「全国書誌」の項の区分で「図書」「非図書」「逐次刊行物」「全て」のいずれかを選択し、日付を指定すると、その日に国立国会図書館で整理が終了した出版物の書誌データが表示されます。

NDL-OPAC 国立国会図書館
蔵書検索・申込システム

検索結果一覧 - 書誌情報提供

検索条件: 枚7日=20111207 and 整理区分=111 or 112 or 113 or 114 or 115 or 116 or 117 or 118

並び順選択: タイトル(昇順)→出版年(新しい順) ⇒資料種別で並べた場合は「選択してください」の先頭に移動できます。

103件中 1~20件を表示 (最大表示件数=1000) [表示件数: 20件 50件 99件]

No.	資料種別	タイトル	著者	出版者 / 出版年	シリーズ等	請求記号
1	図書	50周年記念誌：社団法人中小企業診断協会大阪支部	50周年記念事業推進プロジェクト・記念誌編集担当 編.	中小企業診断協会大阪支部,	2008.3.	D3-J459
2	図書	50年のあゆみ：西大寺商工会議所創立50周年：商工名鑑.		西大寺商工会議所,	1997.10.	D3-J453
3	図書	8(エイト)マン：完全版.1	平井和正 原作；桑田次郎 漫画.	マンガショップ；	2011.10.	マンガショップシリーズ；435

<一覧表示画面>

表示された書誌データをタイトルなどの項目で並べ替えることも可能です。

■ダウンロード

データ1件ごとや、複数件まとめてJAPAN/MARC MARC21フォーマット形式、記号区切りのテキスト形式、引用形式などでダウンロードすることができます。

NDL-OPAC 国立国会図書館
蔵書検索・申込システム

ダウンロード

ファイルの表示・保存ができます

1. レコードを選択 全て 選択したレコード レコード範囲 (例:1-3)

2. エンコードを選択 Unicode / UTF-8 SHIFT-JIS

※MARC形式でダウンロードする場合は、Unicode / UTF-8を選択してください。

3. 形式を選択

実行 クリア

Copyright © 2012- National Diet Library. All Rights Reserved.

<ダウンロード画面>

*データの利用には申請が必要な場合があります。詳細は、当館ホームページに掲載予定です。

※なお、「全国書誌」の機械可読版である JAPAN/MARC は、これまでどおり社団法人日本図書館協会を通じて頒布します。

(収集書誌部)

デジタルアーカイブとモバイル版への ISSN 付与方針

— 第 36 回 ISSN センター長会議参加報告

ISSN（国際標準逐次刊行物番号）ネットワークでは、各国センター長が集まって ISSN 付与に関する実務的な方針を検討するセンター長会議を毎年開催しています。第 36 回 ISSN センター長会議は、2011 年 10 月 5 日から 10 月 7 日までボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボにあるボスニア・ヘルツェゴビナ国立・大学図書館で行われました。ISSN ネットワークには現在 88 か国が参加しています。今回はパリにある [ISSN 国際センター](#)をはじめ、28 か国から 42 名が参加しました。日本からは [ISSN 日本センター](#)を務めている国立国会図書館の代表が参加しました。



ボスニア・ヘルツェゴビナ国立・大学図書館

■ デジタルアーカイブへの ISSN 付与

今回の会議の主要な議題は、[前回の第 35 回会議](#)に引き続き、デジタルアーカイブへの ISSN 付与についてでした。前回会議で確定した「冊子体の逐次刊行物のデジタルアーカイブには、冊子体とは別の ISSN を付与する。デジタルアーカイブと同一内容・同一タイトルのポーン・デジタルの電子ジャーナルが存在し、それにすでに ISSN が付与されていれば、デジタルアーカイブにも電子ジャーナルと同じ ISSN を用いる」という方針について、この間に実施された出版社等からの意見聴取を経て再確認されました。なお ISSN 日本センターでは、従来からこの方針を適用しています。



ISSN センター長会議の会議風景

■モバイル版への ISSN 付与

モバイル端末で閲覧できる逐次刊行物（モバイル版）への ISSN 付与の方針も検討されました。モバイル端末にはスマートフォン、タブレット型端末、電子書籍端末などがあります。そのため、モバイル専用ウェブサイトや、特定のモバイルアプリケーションで読める逐次刊行物へ、どのように ISSN を付与するかが議題となりました。当初、オンライン版の ISSN が既にあっても、出版者からの申請があった場合に限りモバイル版に新しい ISSN を付与する案も提示されましたが、これは採用されませんでした。結論としては、モバイル版には、原則的に他のオンライン版と同一の ISSN を用いることとなりました。モバイル版への ISSN 付与については、デジタルアーカイブへの付与と同様、各国センターでの実践を踏まえ、次回の ISSN センター長会議で再度議題に取り上げられる予定です。

■各種オンライン版への ISSN 付与の方針

以上をまとめると、次のようになることが確認されました。

(1) 同一タイトルの継続資料のオンライン版には同じ ISSN を付与する。

(2) オンライン版には、PDF などによるブーン・デジタル版、スマートフォン、電子書籍端末などのモバイル端末の版、冊子体からデジタル化した版をも含む。

さらに、各国でデジタル化のプロジェクトが進んでいることを反映して、冊子体の出版国とデジタルアーカイブを行った国が異なる場合に、その刊行物に付与された ISSN をどちらの国で管轄するかも議論されました。当面の結論としては、現在の状況が重要であるという意見を踏まえ、デジタルアーカイブを行った国がそれに付与された ISSN を管轄し、原資料である冊子体の出版国に対して連絡を取る、との方針が確定されました。なお、こちらも1年後にこの方針を見直すことになっています。

■今後に向けて

ISSN Manual については、次回の ISSN センター長会議で改訂案を提示する予定であること、ISBD（国際標準書誌記述）、[RDA \(Resource Description and Access\)](#) との調整が課題であることが報告されました。また [FRBR \(Functional Requirements for Bibliographic Records\)](#) を継続資料に適用した場合の問題点についても、作業部会から調査結果の報告がありました。

次回の ISSN センター長会議は、2012年10月にポルトガルのリスボンで開催される予定です。

増田 利恵

(ますだ りえ 収集書誌部逐次刊行物・特別資料課)

メタデータの調和－2011年ダブリンコアとメタデータの応用に 関する国際会議（DC2011）参加報告

「[2011年ダブリンコアとメタデータの応用に関する国際会議（DC2011）](#)」が、9月21日（水）から23日（金）までオランダ王立図書館を会場に開催されました。この会議は、ダブリンコア（Dublin Core）などのメタデータに関する研究発表や意見交換の場として毎年開かれています。11回目を迎える今回は、36カ国から170名の参加者があり、日本からは筆者を含め、計7名が参加しました。

21日はプレカンファレンスで、ダブリンコア、Linked Data、[SKOS（Simple Knowledge Organization System）](#)に関する基本事項を講義するチュートリアルと語彙に関する特別セッションが並行して開催されました。



チュートリアルの様子

本会議は、22日と23日に開催され、両日の午前中に基調講演2本、論文発表11本が行われたほか、午後にはプロジェクト報告、各タスクフォースによるワークショップ、会期中にテーマを設定する「アンカンファレンス（Unconference）」と呼ばれるセッションが同時並行で開催されました。

以下、トピックごとに会議の概要を紹介します。

1. メタデータの調和

今年の会議は、「メタデータの調和：記述言語間の連携」をテーマとして開催され、メタデータ・スキーマや標準がその相違を越えて連携するために解決が必要となる概念上または実践上の問題点について、講演や論文発表が行われました。

22日には、かつて Dublin Core Metadata Initiative (DCMI) で各種標準策定に関わり、現在は Google

にソフトウェアエンジニアとして在籍するニルソン (Mikael Nilsson) 氏から、「メタデータの調和」をテーマとした基調講演が行われました。メタデータ・スキーマや標準が多数存在し、複合的に使用される現在においては、個別にスキーマや標準間でマッピングを定義してメタデータを交換するというアプローチでは、コストがかかりすぎて対応しきれないという状況になりつつあります。ニルソン氏は、「メタデータの相互運用性」を「個別にマッピングを定義するというような一定の方法により、意味の同一性を損なわない形で、システム間でメタデータ交換を行えること」と定義し、それとは別のあり方として、「メタデータの調和」を提唱しました。「メタデータの調和」とは、「複数のメタデータ・スキーマや標準を複合的に用いて記述したメタデータが、システム間の交換方法に関わらず、意味の同一性を担保しつつ、共有されること」と定義され、「意味」のレベルにおいて、個々の標準やスキーマが共通のコアとなるモデルに対応付けされることが、「メタデータの調和」にとって必要になることが述べられました。[1]

22日に行われた論文発表「セマンティック・ウェブにおけるマッピングの再考」でも、同様にメタデータの相互運用の方向性が変わっていることについて、「マッピング」の観点から言及がありました。セマンティック・ウェブを基盤とした環境では、意味の単位が、RDF (Resource Description Framework) のトリプル (主語・述語・目的語のセット。RDF による記述の最小単位となる) のまとまりに還元されるため、メタデータ共有のあり方がこれまでの「レコードベース」から「トリプルベース」に変わってきていることが述べられました。これに伴い、セマンティック・ウェブ環境における「マッピング」の意味するところが、メタデータ・スキーマ間の対応関係を1対1で規定する方法から、メタデータ記述に使用する語彙同士の関係性 (上位・下位・等価など) を [RDF スキーマ](#) や [OWL \(Web Ontology Language\)](#) を用いて定義する「語彙マッピング」という方法へと転換してきているということでした。「語彙マッピング」の方法としては、ローカルな独自語彙を汎用的な語彙 (たとえば、[DCMI Metadata Terms](#)) に対応付けする「ハブアンドスポーク方式」が推奨されるということで、その実例として、[英国情報システム合同委員会 \(JISC\)](#) などにより開発された「[Vocabulary Mapping Framework](#)」が紹介されました。[2]

2. Linked Data

DC2009、DC2010 に引き続き、今年の会議においても、Linked Data に関する取り組みについて、多くの発表や報告が行われました。

23日には、フランスのポンピドゥー・センターでヴァーチャル・ミュージアムのプロジェクト・マネージャーを務めるベルメス (Emmanuelle Bermès) 氏から「図書館・文書館・博物館のための Linked Data に向けて」と題する基調講演があり、図書館・文書館・博物館のデータが Linked Data のクラウドに参加していくことで相乗効果が生まれること、ユーザ目線から Linked Data のサービスを提供することが重要であることなどが述べられました。

論文発表では、Europeana で実施された [Linked Open Data のパイロットプロジェクト](#) (data.europeana.eu) について、図書館・博物館・文書館でそれぞれ使用される典型的なメタデータ・スキーマを吸収でき、かつセマンティック・ウェブや Linked Data に対応した表現が可能なデータモデル「[Europeana Data Model](#)」を採用したことや、データ提供者がこのプロジェクトへの参加を選択でき

るようにしたことなどについて紹介がありました。

そのほか、[AGROVOC](#) (国際連合食糧農業機関 (FAO) が維持管理し、Linked Data 形式でも提供している統制語彙集) を [LCSH](#) (Library of Congress Subject Headings) などと機械的にリンク付けする研究発表、細目付き件名に含まれる地理に関する語を抽出し、地理に関するオントロジーである [GeoName](#) の対応する語彙に機械的にリンク付けを行う研究発表がありました。

3. 来歴情報の記述モデル

様々な機関からメタデータを収集し、集約して提供する場合、タイトルや作成者といった情報資源そのものに関する情報以外に、メタデータの提供者や更新日といった、メタデータ自体に関する情報も必要になります。こうしたメタデータに関する情報の記述モデルを考案するため、2年前に韓国で開催された DC2009 で「メタデータの来歴情報に関するタスクグループ」が立ち上げられました。今回の会議では、論文発表・ポスター発表で活動の成果が報告されるとともに、23日開催のワークショップでタスクグループが提案したモデルについて議論がなされました。

タスクグループからは、[DCMI 抽象モデル](#)を拡張し、Description Set に Annotation Set を付加するという方法が記述モデルとして提案されました。ワークショップでは、このモデルについて議論があり、今後の方向性として、来歴情報を DCMI 抽象モデルに沿いつつどのように記述するかを示す勧告 (Recommendation) と記述に使用する語彙の定義をそれぞれドキュメントとしてとりまとめること、今後の進め方について顧問会議の助言を受けることが決まりました。

4. RDA、FRBR、DC-Lib...

[RDA](#)・[FRBR](#) といった新時代の目録規則・モデルをどのようにメタデータに適用し、システム構築するかについても、一つの焦点となっていました。

「レガシーデータの新しい側面」というテーマで開催されたプロジェクト報告では、RDA に基づいて作成した書誌データをダブリンコア・メタデータとしてエンコードし、評価するという取り組みについて報告がありました。ダブリンコアが定義する語彙だけで、RDA に基づいて作成した書誌データを表現しようとする、実体間の関連などを含め、様々な情報が欠落するという問題が出てきますが、簡易な交換用のフォーマットとして、ダブリンコア・メタデータを使用したいというニーズも考えられることから、今後 RDA とダブリンコア間のマッピングやエンコード方法を示すアプリケーション・プロファイルを精査していく必要があるとのことでした。

このほか、インディアナ大学図書館で実施された、音楽資料のメタデータに FRBR の概念モデルを適用するプロジェクト「[V/FRBR](#)」について報告がありました。XML ベースでシステムを構築してきたが、近年の図書館におけるセマンティック・ウェブ対応の隆盛を受けて、独自語彙やオントロジーを RDF スキーマ・OWL で定義したほか、RDF 形式のダンプデータも用意したことについて説明がありました。

22日午後には、[DCMI/RDA タスクグループ](#)によるワークショップが、[図書館アプリケーション・プロファイル \(Library Application Profile : DC-Lib\) のタスクグループ](#)によるワークショップと合同で開催されました。DCMI/RDA タスクグループは、RDA に基づいて作成された書誌データをセマンティック・ウェブと互換性のある形で表現できるようにするため、メタデータ記述に使用する語彙を定義し、[Open](#)

[Metadata Registry](#) への登録を行っています。一部語彙については「new proposed」から「published」にステータスの変更が完了しており、残りの語彙についても、2011年末までに最終確認を行う予定であると報告がありました。

そのほか、DC-Lib とその維持管理組織である図書館コミュニティについて、対象範囲を「図書館」に限定せず、「文化遺産関連機関」にまで拡張することなどについて議論がされました。

5. おわりに

DC2011 では、「メタデータの調和」というテーマのもと、メタデータの相互運用の新たな方向性が伺われたほか、Linked Data に関する多くの実践例が共有されました。語彙マッピングや Linked Data によるデータ提供が進展し、メタデータ間の連携が強化されることによって、利用者にとっての情報環境がより一層向上することが期待されます。

当会議の発表資料は [DC2011 のウェブサイト](#) で公開されています。

来年の会議 DC2012 は、マレーシアのサラワク州クチンで、「Knowledge Technology Week」のイベントの一つとして、PRICAI (Pacific Rim International Conference on Artificial Intelligence)、PRIMA (Principles and Practice of Multi-Agent Systems) などの情報技術関連の会議と合同で開催される予定です。



DC2012 プロモーション用ポスター

佐藤 良

(さとう りょう 電子情報部電子情報流通課)

[1] 「メタデータの調和 (Metadata Harmonization)」の定義については、以下をご参照ください。

Dublin Core Metadata Initiative. Glossary/Metadata Harmonization - DCMI_MediaWiki.

http://wiki.dublincore.org/index.php/Glossary/Metadata_Harmonization, (参照 2011-11-25) .

[2] Vocabulary Mapping Framework については、以下の記事をご参照ください。

中嶋晋平. メタデータ語彙のオントロジー, VMF のアルファ版がリリース. カレントアウェアネス-E1011. 2010, No.164.

<http://current.ndl.go.jp/e1011>, (参照 2011-11-25) .

■ 関連ページ ■

・佐藤良. メタデータの更なる機能向上に向けて—2010 年ダブリンコアとメタデータの応用に関する国際会議 (DC2010) 参加報告. NDL書誌情報ニューズレター. 2010, 2010. 4.

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3050799_po_2010_4.pdf?contentNo=1

・村上一恵. 「つながる、ひろがる、すぐ見つかる」を目指して—2009 年ダブリンコア (Dublin Core) とメタデータの応用に関する国際会議 (DC2009) 参加報告. NDL書誌情報ニューズレター. 2009, 2009. 4.

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507137_po_2009_4.pdf?contentNo=1

・柴田洋子. セマンティックウェブにおけるダブリンコアの可能性<報告>. カレントアウェアネス-E988. 2009, No.160.

<http://current.ndl.go.jp/e988>, (参照 2011-11-25) .

・白石啓. 2008 年ダブリンコア (Dublin Core) とメタデータの応用に関する国際会議 (DC2008) 参加報告. NDL書誌情報ニューズレター. 2008, 2008. 4.

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507133_po_2008_4.pdf?contentNo=1

お知らせ：国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 (DC-NDL) を改訂しました

2010年6月に公開した「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述」(DC-NDL)を一部改訂し、「[国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述 \(DC-NDL 2011年12月版\)](#)」として、当館ホームページで公開しました。

今回の改訂では、国際的に採用されているメタデータ標準 [Dublin Core](#) の [小規模な改訂 \(2010年10月\)](#) を反映するとともに、2012年1月に正式公開する「[国立国会図書館サーチ](#)」に対応するため、語彙の新規追加や既存語彙の使用法の再定義等を実施しました。詳細は「[DC-NDL2011年12月版](#)」をご覧ください。

なお、改訂前のDC-NDLは通称「[DC-NDL 2010年6月版](#)」とし、過去の基準として引き続き公開します。「DC-NDL 2011年12月版」は、「[国立国会図書館サーチ](#)」の [メタデータフォーマット DC-NDL \(RDF\) 等](#) として、今後、他機関とのデータ交換等に幅広く適用していく予定です。ぜひご活用ください。

(電子情報部 電子情報流通課標準化推進係)

お知らせ：JAPAN/MARC MARC21 フォーマット

マニュアルを公開します

[本誌 2010 年 1 号 \(通号 12 号\)](#) でお知らせしましたとおり、2012 年 1 月から、JAPAN/MARC を MARC21 フォーマットで提供します。また、文字コードに Unicode を採用します。これに合わせて、「JAPAN/MARC MARC21 フォーマットマニュアル」を公開します。このマニュアルは、当館のホームページの [JAPAN/MARC マニュアル・フォーマット](#) のページに掲載します。

MARC21 フォーマットとは、米国議会図書館が提供する、事実上国際標準となっている MARC フォーマットです[1]。欧文の資料を主な対象として作成されているため、当館では読みを 880 フィールドに収録するなどの日本語対応を行い、JAPAN/MARC MARC21 フォーマットを定めました。

単行資料および逐次刊行資料の書誌レコードについては「JAPAN/MARC MARC21 フォーマットマニュアル 単行・逐次刊行資料編」を、典拠レコードについては「JAPAN/MARC MARC21 フォーマットマニュアル 典拠編」をご覧ください。各マニュアルの主な収録内容は、フィールド毎のデータ要素の概要、データの収録範囲、レコード中の文字表現などで、JAPAN/MARC MARC21 フォーマットの仕様についてご確認いただけます。また、当館のホームページにて先行してご案内していましたデータ要素一覧、文字種の取扱い及び読みの表記要領、サンプルデータも収録しています。

どうぞご活用ください。

(収集・書誌調整課書誌調整係)

[1] 米国議会図書館が提供する MARC 21 のフォーマットについては以下をご参照ください。

Library of Congress. “MARC 21 Format for Bibliographic Data”

<http://www.loc.gov/marc/bibliographic/ecbdhome.html>, (参照 2011-12-7) .

Library of Congress. “MARC 21 Format for Authority Data”

<http://www.loc.gov/marc/authority/ecadhome.html>, (参照 2011-12-7) .

お知らせ：「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)」を本格的に公開します

国立国会図書館は「[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス](#)」(以下、Web NDL Authorities) [\[1\]](#) を 2012 年 1 月 6 日から本格的に公開します。本格サービス開始にあたって、2011 年 7 月から公開してきた「開発版」へ頂いたご意見等をふまえ、機能の拡張・改善を行いました。「開発版」からの主な変更は次のとおりです。

(1) データの自動更新

収録されている典拠データについて、自動更新を行います。データの新規追加、訂正、削除について、日次で更新します。

(2) 新設 NDLSH の RSS 配信

新設された国立国会図書館件名標目表 (NDLSH) の標目について、RSS 配信によってお知らせします。配信対象データには、新設標目のほか、標目訂正・削除されたものも含まれます。配信データの内容及び登録手順の詳細については、「[新設件名等の RSS 配信](#)」のページをご覧ください。

(3) 検索機能の改善

開発版を公開し、検索機能に対して様々なご意見・ご感想を頂きました。その中で技術的に対応可能なものについて本公開に向けて修正を行い、異体字の正規化処理 [\[2\]](#) などを改善しました。検索方法の詳細については、「[Web NDL Authorities について > ヘルプ](#)」のページをご覧ください。

当館の典拠データを一元的に検索・閲覧することができ、また、ウェブ上のさまざまなアプリケーションやシステムと連携できる Web NDL Authorities を、是非ご活用ください。

(収集・書誌調整課書誌調整係)

[1] 開発版公開時の Web NDL Authorities の概要については、本誌 2011 年 2 号 (通号 17 号) にて紹介しています。

http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3192138_po_2011_2.pdf?contentNo=1

[2] 例えば「渡辺」で検索すると、「渡邊」も「渡邊」も検索できます。

お知らせ：国立国会図書館件名標目表 (NDLSH)

の提供方法が変わります

2011 年 7 月から公開しました「[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス](#)」(Web NDL Authorities) 開発版では、「国立国会図書館件名標目表」(NDLSH) の収録対象となる件名標目及び細目を[一括してダウンロードする機能](#)を備えました。ダウンロード用のファイル形式は、RDF/XML 形式及び TAB 区切りテキスト形式の二種類を用意しました。特に RDF/XML 形式による提供は、ウェブ上のさまざまなアプリケーションやシステムでの活用を可能にします。このダウンロード機能は、2012 年 1 月から開始する [Web NDL Authorities](#) 本格サービスでも継続します。

また、Web NDL Authorities の本格サービスでは、新設件名の RSS 配信機能を備えます。件名標目及び細目の新設、訂正、削除について、RSS 配信によってお知らせします。

なお、PDF 形式で当館のホームページに掲載してきました NDLSH (「国立国会図書館件名標目表 2008 年度版」並びに「追録」) については、提供を終了しました。

(収集・書誌調整課書誌調整係)

コラム：書誌データ探検 アジア言語資料編

今回は当館におけるアジア言語資料の目録作成についてお話しします。

アジア言語資料の目録作成——そもそもアジア言語資料って？

当館では、「アジアおよび中東の言語による外国語資料」をアジア言語資料と呼び、東京本館内にある収集書誌部ではなく、関西館のアジア情報課で目録作成を行っています。

歴史をさかのぼると、もともと他言語の資料と同様、アジア言語資料の目録作成も当館の整理部門(現・収集書誌部)で行われていましたが、1986年にアジア言語資料の保管と閲覧を行う部署であるアジア資料課で目録作成も行うよう改められました。2002年の関西館開館とともにアジア資料課も移転して関西館アジア情報課となり、現在に至っています。

目録の作成方法——NDL-OPACで検索できない？

当館の目録電子化の歴史は遠く1970年代に始まりますが、日本語や英語と異なる文字を用いるアジア言語資料の目録電子化は大きく遅れ、1990年代までカード目録が使われていました。1998年には統合書誌データベースの開発に着手したものの、当時は日本語用の文字コードで構築された膨大なデータベースをUnicode(日本語を含めた世界中の多様な文字種を同時に扱うことができる文字コード)に置きかえることが難しく、アジア言語資料用の目録データベースとして、Unicodeを採用した多言語対応システムを別に導入することとしました。このため、アジア言語資料の蔵書検索では当館の「NDL-OPAC」を利用できず、「アジア言語 OPAC」を提供してきたのです。

多言語対応システムは大学図書館の総合目録「NACSIS-CAT」の形式を採用しているため、アジア言語資料の目録作成ルールもNACSIS-CATのコーディングマニュアルに準拠し、当館独自のローカルルールを加味して運用してきました。ですので、基本的には大学図書館で行われているアジア言語資料の目録作成と同じことを当館でも行ってきた、と言ってよいでしょう。

中国語資料——「読み」と「ピンイン」

中国語はもちろん日本語と同じく漢字を用いる言語ですが、中国の簡体字、台湾や香港の繁体字という、日本語の漢字とは異なる字体を使用するため、Unicodeを採用したシステムでしか目録を作成できません。

日本語資料の目録では、タイトルなどの書誌的事項を資料に記載されたとおりの漢字仮名混じりで記述し、これに読みを付与して検索の便に備えます。中国語も同じようにタイトルに読みをふらなければならぬわけですが、仮名読みにあたるものが、漢字の仮名読みと、中国で漢字の発音を表すのに使われるローマ文字符号であるピンインのふたつあることが特徴です。

VOL	ISBN	PRICE
TR本標題等	7806448624	150.00元
ED版表示	興京縣志: 民国十四年乙丑年 コウケイケンシ: ミンコク ジュウヨネン イツチュウネン xing jing xian zhi : min guo shi si nian yi chou nian	
PUB出版事項	沈阳: 遼寧民族出版社, 2003.12	
出版者等ヨミ		
出版者他ヨミ		
PHYS形態	519p; 26cm	
PTBL親書誌	遼寧舊方志 リョウネイ キョウハウシ liao ning jiu fang zhi <=> 撫順志/シリーズ書誌	
NOTE注記	折り込2枚	
NOTE注記	民国十四年乙丑年の影印	
AL著者		
CLS分類	NDLC:GE361	

中国語データ例

中国語資料は利用が多く、当館でも鋭意収集に努めています。目録作成には中国語の学習経験があるアジア情報課の職員 4 人が当たっていますが、閲覧やレファレンスなどの他の仕事も行っているため、目録作成だけに時間が割けないのが悩みの種です。

朝鮮語資料——漢字とハングル

朝鮮語は日本語と同じく漢語が多く取り込まれた言語で、漢字と朝鮮語固有の文字であるハングルを組み合わせて表記します。朝鮮語資料の目録作成では、漢字の書誌的事項には、読みとしてハングルを付与します。

VOL	ISBN	PRICE
TR本標題等	議政府消防 30年史: 1977~2008 / 議政府消防署[編] 의정부 소방 30년사: 1977 2008	
ED版表示		
PUB出版事項	의정부: 議政府消防署, 2009.3	
出版者等ヨミ	의정부 소방서	
出版者他ヨミ		
PHYS形態	430p; 27cm	
NOTE注記		
AL著者	의정부 소방서 (議政府消防署) <=> <<1100029994>>	
CLS分類	NDLC:AK4-1311	

朝鮮語データ例

現代の韓国では、漢字仮名混じりが一般的な日本語と異なり、漢字はほとんど使われず、ハングルが主に用いられます。このため、資料の検索もまずはハングルを使うこととなりますが、タイトルなどの書誌的事項には漢字を使用することがあり、読みの有無が OPAC の検索結果を左右します。そこで、当館では漢字の書誌的事項にはタイトル以外でもできるだけ読みを付与するようにしています。

アジア諸言語資料——「原綴」と「翻字」

当館では中国語と朝鮮語以外のアジア言語をまとめて「アジア諸言語」と呼んでいます。アジア諸言語にはモンゴル語、チベット語などの東アジアの言語から、アラビア語、ペルシア語などの中東の言語までさまざまです。この中にもインドネシア語やベトナム語、トルコ語のようにローマ字のアルファベットを使っているものもありますが、多くはそれぞれの言語に固有の文字を使っています。毎日こうした文字をながめていると、アジアの民族の多様さ、文字文化の豊かさが感じられます。

TR本標題等	ข้าราชการ / โดย อาทิตย ุโรรัตน์ ข้าราชการ Khā rātsadṭṭh
ED版表示	พิมพ์ครั้งที่ 2
PUB出版事項	ปทุมธานี : มหาวิทยาลัยรังสิต, 2549 [2006]
TR本標題等	Trầu cau Việt điện thư / Nguyễn Ngọc Chương
ED版表示	In lần thứ 3
PUB出版事項	Hà Nội : Nhà xuất bản Khoa học xã hội, 2009
TR本標題等	آزاد ہندوستان میں اردو زبان، تعلیم اور صحافت / اطهر فاروقی Āzād Hindustān meṅ Urdū zabān, ta'lim aur ṣahāfat
ED版表示	
PUB出版事項	نئی دہلی : انجمن ترقی اردو (ہند), 2007

アジア諸言語データ例（上からタイ語、ベトナム語、ウルドゥー語）

アジア諸言語の目録は、タイトルなどの書誌的事項を、資料にあるとおりの文字の綴り（つづり）（これを「原綴（げんてつ）」と言います）を写して記述し、その文字を発音にもとづいてローマ字に置き換えたもの（これを「翻字（ほんじ）」と言います）を読みとして付与することになっています。

しかし、いかんせんほとんどの文字が日本人にとってなじみの薄いものです。当館の職員もあらゆる文字に通じた語学の天才とは限りませんので、新しい言語がやってくるたびに、文字表と翻字表に首っ引きで格闘し、Unicode の文字表から一文字ずつ拾い出しながらなんとか文字を入力することになります。

大学図書館では、先生方や学生に依頼して原綴と翻字を目録に入力しているようです。当館には残念ながら教師も学生もいないので、館外の専門家のお力を借りながら、毎年少しずつ目録の作成を進めています。

おわりに—そしてこれから

さて、このニューズレターのほかの記事でもお知らせしているとおり、当館は現在ちょうどシステムをリニューアルしているところです。新しいシステムのデータベースは文字コードにUnicodeを採用し、アジア言語資料の目録作成も、日本語や英語と同じシステム上で扱えるようになり、フォーマットは事実上の国際標準である MARC21 へと移行します。

2012年1月からは多言語に対応した新しい [NDL-OPAC](#) が公開されます。長い間書誌データベースの違いから資料の検索方法がアジア言語 OPAC と NDL-OPAC に分かれご面倒をおかけしてきましたが、いよいよ

よ二つのデータベースが統合され、日本語とアジア言語が同じ OPAC で検索できるようになります。

林 瞬介

(はやし しゅんすけ 関西館アジア情報課)

掲載情報紹介

2011年9月30日～2011年12月25日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・ [「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述」\(DC-NDL\) を改訂](#)

「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述」(DC-NDL) を改訂しました。

(掲載日：12月1日)

- ・ [「平成24年1月からのJAPAN/MARCデータの提供」の資料を掲載](#)

国立国会図書館が提供するJAPAN/MARCデータについて、2012年1月からの提供方法の資料を掲載しました。

(掲載日：12月1日)

- ・ [分類・件名 国立国会図書館件名標目表 \(NDLSH\) 2008年度版追録\(2011年9月～2011年11月\)](#)

2011年9月～2011年11月に更新した件名標目のリストです。各月に新設した件名には以下のものがあります。

2011年9月：「映写」 「武士団」 「臨時列車」など

(掲載日：10月17日)

2011年10-11月：「アンペイドワーク」 「視覚障害者誘導用ブロック」 「醜形恐怖」など

(掲載日：11月18日)

なお「追録」の提供は今回をもって終了しました。

編集者からの一言

2011 年末から 2012 年初めにかけて、当館の書誌データの作成・提供は変革の時を迎えます。

サービスのフロントとなる「[国立国会図書館サーチ](#)」を支える大きな基盤のひとつである書誌作成のシステムが MARC21 をベースにしたものとなり、[JAPAN/MARC 等](#)のプロダクトや、「全国書誌」が変わります。NDL-OPAC から MARC 形式のデータをダウンロードすることも可能となります。

書誌データの文字コードも、JIS コードから Unicode となり、文字の制約ということもあってこれまで別のデータベースであったアジア言語資料も統合されることになりました。

今号のコラムでは、このアジア言語の「文字との戦い」について語られていますが、筆者も遠く 30 年ほど昔でしょうか、何度も文字の校正があったため、修正液が何層にも塗り重ねられた中・韓の印刷カード版下の受け渡しをしたことを思い出しました。

海の向こうでの「AACR2」から「RDA」へというような動きを聞くと、正直言って「この国のかたち」ならぬ「この図書館のかたち」はまだ筆者にも見えているわけではありません。「こう」と形が決まるものではなく、より使いやすいものへと変容を重ねていくことが必要なのでしょう。

そのためにも、当館の書誌を使っていただく方を始めとする多くの方々のご意見を今後とも頂戴できればと思います。

(吾亦紅)

NDL 書誌情報ニューズレター (年 4 回刊)

ISSN 1882-0468 / ISSN-L 1882-0468

2011 年 4 号 (通号 19 号) 2011 年 12 月 26 日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

E-mail: bib-news@ndl.go.jp (ニューズレター編集担当)